

平成25年度第1回日高教育局管内特別支援連携協議会



期日：平成25年6月14日(金)
会場：日高合同庁舎地下会議室

平成25年度第1回日高教育局管内特別支援連携協議会を左記の期日、会場で開催しましたので、その概要をお知らせします。

本協議会では、はじめに、事務局から「今年度の特別支援教育総合推進事業の概要」について報告しました。

続いて、特別支援教育の充実に向け、

- 柱1 「日高版『個別の教育支援計画』モデル案の具体的な活用方法及び『管内特別支援教育マップ』の普及について」
- 柱2 「関係機関における相談支援の充実及び関係機関と連携を図るための校内体制の充実について」

の協議を行いました。

協議における委員からの意見

柱1 「日高版『個別の教育支援計画』モデル案の具体的な活用方法及び『管内特別支援教育マップ』の普及について」

☆「日高版『個別の教育支援計画』モデル案の具体的な活用方法

全校体制で支援を行うことができるよう、校内委員会でモデル案を活用して情報の共有を図ることを学校に働きかけてはどうか。

客観的な事実や保護者のニーズをしっかりと把握し、進学先に引き継ぐ場を設定するよう、学校に働きかけてはどうか。

これまで、各学校で作成されてきた「個別の教育支援計画」の様式をモデル案で統一してはどうか。

保健福祉の機関で作成している「支援計画」と様式を統一し、一生涯使用できる「支援計画」となるようにしてはどうか。

発達支援センターや地元の保健師と連携を密にし、情報交換の機会を設け、必要な情報を記録化してはどうか。

幼稚園でも作成しやすくするために、チェックリストの項目を見直したり、文言を分かりやすくしてはどうか。

☆「管内特別支援教育マップ」の普及のための方策

どこで、どのような支援を受けられるか分かるよう、各機関における具体的な支援内容を記載してはどうか。

公的な機関だけではなく、民間の相談支援機関を掲載し、相談者の幅広いニーズに応えることができるようにしてはどうか。

柱2 「関係機関における相談支援の充実及び関係機関と連携を図るための校内体制の充実について」

学校が、関係機関に足を運んだり、民間の相談員を講師に招聘したりするなどして、関係を構築するよう働きかけてはどうか。

特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図ることができるよう、研修の機会をさらに拡充してはどうか。

全教員の特別支援教育の専門性を向上することができるよう、専門家チームを各学校に定期的に派遣してはどうか。

「日高版『個別の教育支援計画』モデル案」を作成する際に、関係機関からの情報を得るためのケース会議を設定するよう働きかけてはどうか。

まとめ

- 子どもの障がいに応じた一貫した支援を行うことができるよう、「日高版『個別の教育支援計画』モデル案」を活用した引継ぎの場を設定する必要がある。
- 学校と関係機関の連携を一層図ることができるよう、「日高版『個別の教育支援計画』モデル案」を活用し、子どもの障がいの状態や支援の内容についての情報を共有する必要がある。

平成25年度第1回日高教育局管内専門家チーム会議



期日：平成25年6月17日(月)
会場：日高合同庁舎地下会議室

平成25年度第1回日高教育局管内専門家チーム会議を左記の期日、会場で開催しましたので、その概要をお知らせします。
本会議では、はじめに、事務局から「今年度の特別支援教育総合推進事業の概要」について報告しました。
続いて、特別支援教育の充実に向け、

- 柱1 日高版「個別の教育支援計画」モデル案の活用方法について
- 柱2 日高版「個別の教育支援計画」モデル案（小・中学校版）の作成について
- 柱3 校種間の接続に関わる活用事例集の作成について

の協議を行いました。

協議における委員からの意見

柱1「日高版『個別の教育支援計画』モデル案の活用方法について」

幼稚園・保育所で行ってきた支援について記述できる欄を設けた方がよいのではないか。

保護者が見ても分かりやすいよう、チェックリストの文言を吟味する必要があるのではないか。

子どものよさが十分に伝わるよう、チェックリストの文言を工夫改善するとよいのではないか。

通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒に対しても作成することができるよう、より簡易な様式を工夫してはどうか。

福祉サイドと連携を図り、できれば福祉サイドの「支援計画」と統一した「個別の教育支援計画」の様式とすることが望ましい。

各町における「個別の教育支援計画」の様式を統一すれば、活用しやすくなるのではないか。

柱2「日高版『個別の教育支援計画』モデル案（小・中学校版）の作成について」

幼小・小中の引継ぎに活用しやすいよう、チェックリストの項目を工夫する必要がある。

チェックリストで表せない部分については、自由記述欄を設けるとよいのではないか。

小・中学校版については、通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒に対して作成しやすいよう工夫する必要がある。

児童生徒の障害の状態に応じて、記入するチェックリストを選択できるようにするとよいのではないか。

柱3「校種間の接続に関わる活用事例集の作成について」

「個別の教育支援計画」を活用して引継ぎを行うことの有用性が分かる活用事例集を作成する必要がある。

保護者が、「個別の教育支援計画」を活用した引継ぎの必要性について理解しやすい事例集になるとよい。

まとめ

- 就学前の幼児だけではなく、通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒に対する「日高版『個別の教育支援計画』モデル案」を作成し、支援を充実させる必要がある。
- 「日高版『個別の教育支援計画』モデル案」の活用を促すことができるよう、様々なケースを想定した、「個別の教育支援計画」の活用事例集を作成し、普及啓発する必要がある。